



【造船所見学・船の進水式探究】

《目的》

船台での進水式等を目の当たりにして、船舶のスケールの大きさを実感するとともに、建造された船舶がグローバルな社会において大きな役割を果たしていることを理解する。

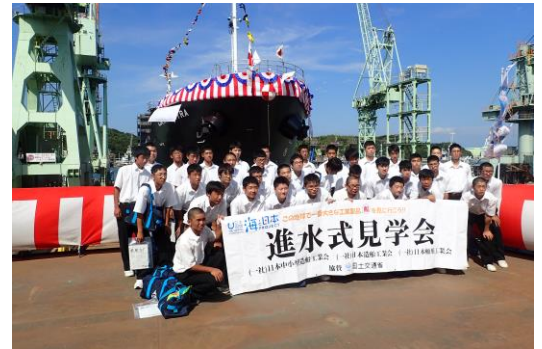


《実施内容》

船台を持つ造船会社の進水式等の探究活動

《取組》

- 日 時 平成29年8月23日(水) 9:40
- 場 所 檜垣造船株式会社
- 対 象 機械造船科1年生 38名
- 内 容 進水式の見学・建造関係者への質疑



《生徒の感想・学んだこと》

- ・船の名前は、女性や星座の名前などを使うことが多いことを知りました。
- ・小学校で初めて見たときは、ただ船の大きさに驚いていただけでしたが、今回は、どのようにして進水するのか、理解することができました。
- ・進水した船は、何十年もの間、世界中で活躍することが分かりました。
- ・乗組員の国籍や人数が、国ごとに決まっていることに驚き、日本で建造する場合でも、他国のルールに則って造っていることが印象的でした。
- ・進水準備の3・2・1のカウントダウンで、安全に気を配りながら確実に作業を進めており、安全第一の言葉がいかにか大切に学ぶことができました。
- ・人の力が集まると、こんな大きなものまで造ることができるのかと感動しました。
- ・とても壮大で感動し、自分も大きな船を造りたいと思いました。



《企業の方のコメント》

進水式は船の建造工程で一番華やかであるが、成功のためにはミスの無いよう関係者全員が協力して取り組む緻密さが必要。表面の華やかさだけでなく、その裏側や多くの事に興味を持ち、知識の向上に努めてもらいたいと思います。

《SPH推進アドバイザー岡田さんの助言》

生徒は瞬間の大きな感動とともに船への興味が深まり、多くの疑問を持ったのでは。式後の質疑で多くのことを学び、造船の面白さを実感したと思う。

《成果・今後の課題》

- ・生徒の感想から、高校生になって経験する進水式の見学が、将来を見据えた、より深い学びとなっている様子がうかがえました。今後の学びに向かう力や、キャリア形成につながるのではないかと感じています。
- ・生徒一人一人が海事産業に夢を持つことができたのではないかと感じており、今回学んだことを今後の学習等に生かしていきたいと思います。

